



## Cisco Jabber のアプリケーションとの統合

---

- [Microsoft SharePoint 2010 および 2013 でのプレゼンスの設定 \(1 ページ\)](#)
- [クライアントの可用性 \(2 ページ\)](#)
- [プロトコルハンドラ \(4 ページ\)](#)

## Microsoft SharePoint 2010 および 2013 でのプレゼンスの設定

IM アドレスがメールアドレスと異なる状況で組織がユーザのプロファイルを定義する場合は、クライアントと Microsoft SharePoint 2010 および 2013 の間でプレゼンス統合を有効にする追加設定が必要になります。

### 始める前に

- Windows 版 Cisco Jabber クライアント専用。
- すべてのサイトが Microsoft SharePoint Central Administration (CA) と同期していることを確認します。
- Microsoft SharePoint と Active Directory 間の同期がセットアップされていることを確認します。

### 手順

---

- ステップ 1** Microsoft SharePoint 2013 を使用している場合は、次の情報でユーザの SharePoint CA プロファイル ページを更新します。
- a) [SIP アドレス (SIP Address)] プロファイル フィールドを空白のままにします。
  - b) [勤務先電子メール (Work email)] プロファイル フィールドに、ユーザ プロファイルを入力します。たとえば、`john4mail@example.pst` と入力します。
- ステップ 2** Microsoft SharePoint 2010 を使用している場合は、次の情報でユーザの SharePoint CA プロファイル ページを更新します。

- a) [SIPアドレス (SIP Address)] プロファイル フィールドに、ユーザ プロファイルを入力します。たとえば、`john4mail@example.pst` と入力します。
- b) [勤務先電子メール (Work email)] プロファイル フィールドを空白のままにします。

## クライアントのアベイラビリティ

ユーザは、クライアントの [オプション (Options)] ウィンドウの [ステータス (Status)] タブで自分たちがミーティング中であることを第三者に知らせるためのオプションを設定することによって、自分たちのアベイラビリティが予定表イベントに影響するかどうかを定義できます。このオプションは、予定表内のイベントとユーザのアベイラビリティを同期させます。クライアントには、サポートされている統合カレンダーの [ミーティング中 (In a meeting)] アベイラビリティしか表示されません。

クライアントは、[ミーティング中 (In a meeting)] アベイラビリティに関する次の2つのソースの使用をサポートします。



(注) モバイルクライアント向け Cisco Jabber は、Cisco Jabber 11.7 リリース以降でこのミーティング統合機能をサポートします。

- Microsoft Exchange と Cisco Unified Communication Manager IM and Presence の統合：オンプレミス展開に適用されます。Cisco Unified Presence の [マイ プレゼンス ステータスをカレンダー情報に包含する (Include Calendar information in my Presence Status)] フィールドとクライアントの [ミーティング中 (In a meeting)] オプションは同じものです。両方のフィールドが Cisco Unified Communication Manager IM and Presence データベース内の同じ値を更新します。

ユーザが両方のフィールドを別々の値で設定した場合は、最後に設定したフィールドが優先されます。クライアントが実行されている際に、ユーザが [マイ プレゼンス ステータスをカレンダー情報に包含する (Include Calendar information in my Presence Status)] フィールドの値を変更すると、ユーザはその変更を適用させるためにクライアントを再起動する必要があります。

- Cisco Jabber クライアント：オンプレミス展開とクラウドベース展開に適用されます。[ミーティング中 (In a meeting)] アベイラビリティを設定するには、クライアントの Cisco Unified Communication Manager IM and Presence と Microsoft Exchange の統合を無効にする必要があります。クライアントは、Cisco Unified Communication Manager IM and Presence と Microsoft Exchange 間の統合がオンなのか、オフなのかをチェックします。また、クライアントは、統合がオフの場合にだけアベイラビリティを設定できます。

次の展開シナリオで、アベイラビリティの作成方法について説明します。

導入シナリオ	[ミーティング中（個人用のカレンダーより）（ <b>In a meeting (according to my calendar)</b> ）] を選択します。	[ミーティング中（個人用のカレンダーより）（ <b>In a meeting (according to my calendar)</b> ）] を選択しません。
Cisco Unified Communication Manager IM and Presence と Microsoft Exchange 間の統合を有効にする	Cisco Unified Communication Manager IM and Presence によってアベイラビリティステータスが設定されます。	アベイラビリティステータスは変更されません。
Cisco Unified Communication Manager IM and Presence と Microsoft Exchange 間の統合を有効にしない	クライアントにより、アベイラビリティステータスが設定されます。	アベイラビリティステータスは変更されません。
クラウドベース展開	クライアントにより、アベイラビリティステータスが設定されます。	アベイラビリティステータスは変更されません。

また、次の表に、展開シナリオ別にサポートされるアベイラビリティの説明を示します。

クライアントで有効にされたアベイラビリティ	Cisco Unified Communication Manager IM and Presence と Microsoft Exchange の統合によって有効にされたアベイラビリティ
[オフライン（ミーティング中）（Offline in a meeting）] アベイラビリティはサポートされません。	[オフライン（ミーティング中）（Offline in a meeting）] アベイラビリティがサポートされます。
非予定表イベントに対して [ミーティング中（In a meeting）] アベイラビリティがサポートされます。	非予定表イベントに対して [ミーティング中（In a meeting）] アベイラビリティはサポートされません。
<p>(注) [オフライン（ミーティング中）（Offline in a meeting）] アベイラビリティは、ユーザがクライアントにログインしていないが、ユーザの予定表にイベントが存在していることを意味します。</p> <p>非予定表イベントとは、インスタントミーティング、[オフライン（Offline）]、[電話中（On a call）]などのユーザの予定表に表示されないイベントを意味します。</p>	

## プロトコルハンドラ

Cisco Jabber は、次のプロトコルハンドラをオペレーティングシステムに登録し、クリックツーコールまたはクリックツーIM機能を Web ブラウザやその他のアプリケーションから使用できるようにします。

- XMPP: または XMPP://

Cisco Jabber でインスタントメッセージを開始し、チャット ウィンドウを開きます。

- IM: または IM://

Cisco Jabber でインスタントメッセージを開始し、チャット ウィンドウを開きます。

- TEL: または TEL://

Cisco Jabber で音声またはビデオ コールを開始します。




---

(注) TEL は Apple 純正の電話機に登録されます。iPhone および iPad 版 Cisco Jabber を相互起動するために使用することはできません。

---

- CISCOTEL: または CISCOTEL://

Cisco Jabber で音声またはビデオ コールを開始します。

- SIP: または SIP://

Cisco Jabber で音声またはビデオ コールを開始します。

- CLICKTOCALL: または CLICKTOCALL://

Cisco Jabber で音声またはビデオ コールを開始します。

## プロトコルハンドラのレジストリ エントリ

プロトコルハンドラとして登録するために、クライアントが Microsoft Windows レジストリの次の場所に入ります。

- HKEY\_CLASSES\_ROOT\tel\shell\open\command
- HKEY\_CLASSES\_ROOT\xmpp\shell\open\command
- HKEY\_CLASSES\_ROOT\im\shell\open\command

2 つ以上のアプリケーションが同一プロトコルのハンドラとして登録される場合は、レジストリに最後に書き込まれたアプリケーションが優先されます。たとえば、Cisco Jabber が XMPP: のプロトコルハンドラとして登録された後に別のアプリケーションが XMPP: のプロトコルハンドラとして登録された場合は、別のアプリケーションの方が Cisco Jabber より優先されます。

## HTML ページのプロトコルハンドラ

HTML ページに、href 属性の一部としてプロトコルハンドラを追加します。HTML ページに表示されるハイパーリンクをクリックすると、クライアントはプロトコルに対して適切な処理を実行します。

### TEL および IM プロトコルハンドラ

HTML ページの TEL: および IM: プロトコルハンドラの例。

```
<html>
  <body>
    <a href="TEL:1234">Call 1234</a><br/>
    <a href="IM:msmith@domain">Send an instant message to Mary Smith</a>
  </body>
</html>
```

前の例では、ユーザがハイパーリンクをクリックして 1234 に発信すると、クライアントはその電話番号への音声コールを開始します。ユーザが Mary Smith にインスタントメッセージを送信するハイパーリンクをクリックすると、クライアントは Mary とのチャットウィンドウを開きます。

### CISCOTEL および SIP プロトコルハンドラ

HTML ページの CISCOTEL および SIP プロトコルハンドラの例：

```
<html>
  <body>
    <a href="CISCOTEL:1234">Call 1234</a><br/>
    <a href="SIP:msmith@domain">Call Mary</a><br/>
    <a href="CISCOTELCONF:msmith@domain;amckenzi@domain">Weekly conference call</a>
  </body>
</html>
```

上記の例では、ユーザが 1234 へコールまたは Mary にコールのハイパーリンクをクリックすると、クライアントはその電話番号への音声コールを開始します。

### XMPP プロトコルハンドラ

HTML ページの XMPP: プロトコルハンドラを使用したグループチャットの例。

```
<html>
  <body>
    <a href="XMPP:msmith@domain;amckenzi@domain">Create a group chat with Mary Smith and Adam McKenzie</a>
  </body>
</html>
```

前の例では、ユーザが Mary Smith および Adam McKenzie とのグループチャットを作成するハイパーリンクをクリックすると、クライアントは Mary および Adam とのグループチャットウィンドウを開きます。



**ヒント** XMPP: および IM: ハンドラに連絡先リストを追加し、グループチャットを作成します。連絡先を区切るには、次の例のようにセミコロンを使用します。

```
XMPP:user_a@domain.com;user_b@domain.com;user_c@domain.com;user_d@domain.com
```

### 件名と本文の追加

プロトコルハンドラに件名と本文を追加できます。これにより、ユーザがパーソンツーパーソンまたはグループのチャットを作成するために、ハイパーリンクをクリックすると、クライアントはチャットウィンドウを開き、前もって入力された件名と本文を表示します。

件名と本文は、次のいずれのシナリオでも追加できます。

- クライアントでインスタントメッセージング用にサポートされているプロトコルハンドラを使用する
- パーソンツーパーソンチャットまたはグループチャットのいずれか
- 件名と本文を含める、またはそのどちらかを含める

次の例では、ユーザが下のリンクをクリックすると、前もって入力された **I.T Desk** の本文を含む、パーソンツーパーソンチャットウィンドウが開きます。

```
xmpp:msmith@domain?message;subject=I.T.%20Desk
```

次の例では、ユーザが下のリンクをクリックすると、[I.T Desk] のトピックを含む [グループチャットの開始 (Start Group Chat)] ダイアログボックスが開き、チャットウィンドウの入力ボックスには「Jabber 10.5 Query」というテキストが入力されています。

```
im:user_a@domain.com;user_b@domain.com;user_c@domain.com?message;subject=I.T.%20Desk;body=Jabber%2010.5%20Query
```

## プロトコルハンドラでサポートされるパラメータ

### モバイルクライアントの相互起動

モバイルクライアント用 Cisco Jabber では、指定したアプリケーションに戻ることができます。たとえば、番号をダイヤルする ciscotel URI リンクを作成する場合に、パラメータとしてアプリケーション名を追加し、コールの終了時にそのアプリケーションに戻るようユーザに要求できます。

```
ciscotel://1234567?CrossLaunchBackSchema=SomeAppSchema&CrossLaunchBackAppName=SomeAppName
```

- **CrossLaunchBackAppName** : コール終了時に Cisco Jabber が相互起動するアプリケーションの名前を入力することをユーザに求めます。
  - **none** (デフォルト) : ダイアログボックスにアプリケーションが表示されません。
  - **app\_name** : ダイアログボックスに表示されるアプリケーション名。
- **CrossLaunchBackSchema** : コールが終了したときに使用するスキーマを指定します。

- `none` (デフォルト) : Cisco Jabber に留まります。
- `schema` : アプリケーションの相互起動に使用されるスキーマ。

### サポートされる区切り文字

HTML ページの URI リンクを作成するときに、セミコロンを使用して文字を区切ることができます。これは、SIP、Tel、CiscoTel、および ClickToCall プロトコルハンドラでサポートされます。次の例では、2つの番号を使用する電話会議がリンクに作成されます。

```
tel:123;123
```

IM プロトコルは、セミコロン区切り文字をサポートしています。次の例では、2人の参加者がいるグループチャットがリンクに作成されます。

```
im:participant1@example.com,participant2@example.com
```

## DTMF サポート

### IM ウィンドウでの DTMF の入力

クライアントの会話ウィンドウで、DTMF 数字を含むプロトコルハンドラを入力すると、参加者が使用できるリンクがクライアントによって作成されます。サポートされるプロトコルは、TEL、CISCOTEL、SIP、CLICKTOCALL、CISCOIM、IM および XMPP です。サポートされるパラメータは番号または SIP URI です。

次の例では、番号が 1800123456、エントリの PIN が 5678# です。この TEL URI リンクを使用して会議リンクが作成されます。

```
tel:1800123456,,,5678#
```

### アクティブコールでの DTMF の入力

コール中、ユーザは DTMF 数字をコピーしてクライアントのコールウィンドウに貼り付けることができます。ユーザは会議招待状の会議 ID、参加者 ID、PIN を簡単に入力できます。アクティブコール中に英数字の文字列を入力すると、それらの文字列はキーパッドの対応する番号に解釈されます。

### サポートされている DTMF 信号

ユーザが、Jabber がコールしているシステムでサポートされていない DTMF 信号を入力した場合、Jabber はユーザの入力を発信しません。

Windows 版 Cisco Jabber および mobiles では、次の DTMF 信号がサポートされています。

- 0 ~ 9
- #
- \*
- A ~ D

